

報告事項 1

平成27年6月定例県議会の概要について

このことについて、平成27年6月18日から7月7日までの会期で開催された定例県議会における教育委員会所管分の質疑状況等について別紙資料に基づき報告します。

平成27年7月8日

総務課

平成 27 年 6 月定例県議会代表質問一覧

自由民主党代表質問 峰 野 修

5 次代を担う人づくりについて

第三次教育振興基本計画の策定について

第三次教育振興基本計画の策定にあたり、これからの新しい時代にふさわしい教育をどのように考えておられるのか、また、教育振興基本計画と知事の「大綱」との関係について、どのように考えておられるのか、教育長のご所見をお伺いします。

民主党代表質問 永 井 雅 彦

教育委員会関係の質問なし

【質問要旨】

6 次代を担う人づくりについて

第三次教育振興基本計画の策定について

第三次教育振興基本計画の策定にあたり、これからの新しい時代にふさわしい教育をどのように考えておられるのか、また、教育振興基本計画と知事の「大綱」との関係について、どのように考えておられるのか、教育長のご所見をお伺いします。

【教育長答弁要旨】

これからの新しい時代にふさわしい教育の在り方や教育振興基本計画と知事の「大綱」との関係について、お尋ねをいただきました。

この地域の未来を託す子どもたちには、引き続き、人を思いやる豊かな心、健やかな体、基礎的な知識・技能や思考力といった、生きる力の基盤となる資質・能力の育成を図ることはもとよりでございますが、課題の解決に向け主体的・協働的に学ぶアクティブ・ラーニングの推進を始め、創造性豊かなモノづくり人材やグローバル人材の育成、さらには、ICTによる情報活用能力の育成など、新しい時代にふさわしい教育の在り方を検討していく必要があると考えております。

そのためには、教員の指導力や学校全体の教育力を高めるとともに、地域と連携した教育を充実させ、社会総ぐるみで子どもたちを育てていくことも一層重要になるものと考えております。次期計画の策定に当たりましては、こうした認識のもと、より効果的、かつ具体的な取組を盛り込んでいきたいと考えております。

また、「大綱」との関係につきましては、先の総合教育会議において、知事から「次期計画との整合性を図りながら、その目標や基本的な方針の部分を大綱としていく」との方向性が示されたところでございます。現在、知事部局と連携し次期計画の策定を進めておりますが、教育に関わる大きな目標を知事との間でしっかりと共有し、本県全体の教育の充実につながる計画にしていきたいと思います。

平成27年6月議会一般質問一覧

2015/6/24

教育委員会総務課

順	氏名	会派	質問項目	担当部局	担当課	備考
1	堀 寄 純 一	自民	1 道の駅の整備について	建設		
			2 「山車日本一あいち」宣言の進捗について	教育	文化財保護室	
			3 大規模国際会議等の誘致について	振興		
2	高 橋 正 子	民主	1 ちゃんとごはんが食べれない 子どもの貧困対策「食」への取組について			
			(1) 母子家庭への支援について	健福		
			(2) スクールソーシャルワーカーについて	教育	義務教育課	
			(3) 子どもへのフォローについて	健福		
			(4) 次期食育推進計画の作成について	農水		
			(5) フードバンク活動について			
			ア 食品ロスの削減につながるフードバンク活動について	農水		
			イ 団体へのサポートについて	健福		
			(6) 民間の活用について	健福		
			2 良好な自転車交通秩序の実現に向けた取組について	警察		
3	政 木 り か	自民	1 改正道路交通法に伴う自転車運転ルールについて			
			(1) 自転車レーンの整備状況と今後の整備計画及び交通ルールの指導について	警察		
			(2) 運転免許を持っていない者に対する指導について	警察		
			(3) 県立高校における自転車の運転ルールに関する教育について	教育	健康学習課	
			(4) 自転車保険の加入について	教育	健康学習課	
			2 子宮頸がんワクチンについて	健福		
4	市 川 英 男	公明	1 里親委託の推進について	健福		
			2 河川整備の計画と取組状況について	建設		
			3 県立学校施設の老朽化対策について	教育	財務施設課	

平成27年6月議会一般質問一覧

2015/6/24

教育委員会総務課

順	氏名	会派	質問項目	担当部局	担当課	備考
5	田中泰彦	自民	1 グローバル人材育成について			
			(1) 日本人としてのアイデンティティーの育成について			
			ア 国旗掲揚・国歌斉唱について	教育	高等学校教育課	
			イ 高等学校における道徳教育について	教育	高等学校教育課	
			(2) 積極性のある人づくりに関する教育について			
			ア 世界の中から埋もれてしまわない人材の育成について	教育	高等学校教育課	
			イ 普通科におけるキャリア教育について	教育	高等学校教育課	
			ウ 総合学科について	教育	高等学校教育課	
			エ ALTについて	教育	高等学校教育課	
6	鈴木純	民主	1 新たな産業労働計画について			
			(1) あいち産業労働ビジョン2011-2015の評価と課題	産労		
			(2) 新しい産業労働計画の策定に向けて	産労		
			2 子どもの笑顔が集まるプロジェクト について			
			(1) 県庁に行こう！			
			ア 子ども達の政治・行政に関する教育について	教育	高等学校教育課 義務教育課	
			イ 県庁見学について	総務		
			(2) 平和について考えよう	県民		
			3 高齢者の交通安全対策について	県民警察		
7	石井拓	自民	1 衣浦豊田道路の整備について	建設		
			2 油ヶ淵水辺公園の整備及び管理運営について	建設		

平成27年6月議会一般質問一覧

2015/6/24

教育委員会総務課

順	氏名	会派	質問項目	担当部局	担当課	備考
8	長江正成	民主	1 知の拠点あいちについて	産労		
			2 受動喫煙を防止する環境づくりについて			
			(1) 全面禁煙が極めて困難な県有施設の数について	健福		
			(2) 職員用の喫煙室について	健福		
			(3) 未成年の方や妊娠中の方に対する対策済みの施設数と未対策の施設数について	健福		
			(4) 本庁舎に対する考え方について	健福		
			(5) 県有施設の喫煙室の空気環境測定を含めた今後の取組について	健福		
			(6) 健康増進法の施設の対象となる施設の管理者に対する取組について	健福		
			(7) 未成年者に対する受動喫煙防止対策について	健福		
			(8) 教育現場での教科以外の取組について	教育	健康学習課	
9	ますだ裕二	自民	1 高齢者が安心して暮らせる地域づくりについて			
			(1) 孤独死を防ぐための地域包括ケアシステムの構築	健福		
			(2) シルバーハウジングの整備促進	建設		
			2 観光資源の磨き上げ及び外国人旅行者の受入環境整備について	振興		
			3 NPOの支援について	県民		
10	飛田常年	自民	1 農作物の鳥獣被害対策について	農水		
			2 災害時の被災動物対策について	健福		
11	黒田太郎	民主	1 あいち中小企業応援ファンドについて	産労		
			2 商店街振興策について	産労		
			3 経営支援と一体となった金融支援について	産労		
12	成田修	自民	1 第3次あいち地震対策アクションプランについて			
			(1) 中小企業におけるBCP（業務継続計画）策定	産労		
			(2) 学生の消防団加入促進	防災		
			(3) 消防団への地方公務員の入団促進	防災		

平成27年6月議会一般質問一覧

2015/6/24

教育委員会総務課

順	氏名	会派	質問項目	担当部局	担当課	備考
13	安井伸治	民主	1 介護福祉分野における人材確保について	健福		
			2 民間救急車の活用について	防災		
			3 子宮頸がんワクチン副作用に対する支援について	健福		
14	山本浩史	自民	1 自転車等盗難防止対策について	警察		
			2 信号機のLED化について	警察		
			3 女性の活躍促進について	県民		

平成27年6月定例県議会 一般質問（6月23日） 教育長答弁要旨
1番 自民党 堀寄純一議員

【質問要旨】

2 「山車日本一あいち」宣言の進捗について

県は、既存の組織や取組がある中で、この山車まつりの新たなネットワークづくりについて、どのように進めていくおつもりか、現在の進捗状況及び知事のマニフェストにある「山車日本一あいち」宣言までの日程を伺う。

【教育長答弁要旨】

山車まつりのネットワークづくりについて御質問をいただきました。

本県は今年度から山車まつり保存団体のネットワークづくりのため、「あいち山車まつり日本一協議会^{にっぽんいち}」の設立をめざしておりまして、この3月27日には、議員お示しの「愛知山車祭り保存協議会」の幹事団体を核として、設立準備会を発足させております。

この日本一協議会^{にっぽんいち}には県内全ての山車まつりの保存団体に参加をしていただきたいというふうに考えておりまして、現在、協議会の設立に向けて、全県域を対象に山車まつりの所在をはじめ、実態の把握に努めているところでございます。

この調査では、「山車^{さいしや}」はもちろんのこと、川や池を巡行する「車楽船^{だんじりぶね}」、御所車^{ごしょぐるま}に似た小型の山車である「祭車^{はなぐるま}」、その他^{とら}、色とりどりの造花で飾られた「花車」を扱う祭礼までを「山車まつり」として幅広く捉え、今年の9月を目途に掘り起こしや集約作業を終えていく予定といたしております。

本協議会への加入の呼びかけにつきましては、所在が明らかになっている山車まつりの関係団体から順次行ってまいりたいと考えております。

そのうえで、今年の年末には、山車まつりの保存団体の方々や市町村関係者が一堂に会して、「あいち山車まつり日本一協議会^{にっぽんいち}」発足の決起イベントを盛大に開催するとともに、その中で「山車日本一あいち^{にっぽんいち}」の宣言も行ってまいります。

また、この決起イベントでポスター・カレンダー・パンフレットの配布を行うなど、あいちの山車文化を国内外へ広く発信することで、来年11月頃に予定されるユネスコ無形文化遺産登録に向けて、弾みをつけてまいりたいと、このように考えております。

【要望】

次の山車日本一あいちの宣言でございますけれども、要は、山車だとか花車だとか車楽船、いろいろなものを今後、調査・集約をして、掘り起こしていくというお答えでござい

ました。

多分、その数は、200を超えて400とも500とも潜在的には私はたくさんあるのではないかと考えておりますけれども、過去の伊勢湾台風をはじめ、いろいろな災害でそれぞれの山車だとかお祭りに関わる部材がなくなってしまったとか、組み方がわからないだとか、若い人がいないだとか、囃子そのものが途絶えてしまっただとか、先ほど申し上げました部材の一部が欠落して何がなくなったのかもわからないだとか、そうした潜在的な山車もしくは山車まつりを所有している候補地域もたくさんあるかと思います。

私はその協議会を起ち上げていただきまして、そういった復活にもぜひ努めていただき、皆さんの知恵と汗で、「俺たちがお手伝いするよ」とか「わからないものは一回見せてよ」とか、いろいろなやり方で復活をしていただいて、さらに充実をさせて、山車日本一あいちの宣言に漕ぎ着けていただきたい、そのように考えております。これにつきましては、ぜひ、しっかりやっていただきたいという要望をさせていただきたいと思っております。

【質問要旨】

1 ちゃんとごはんが食べれない

子どもの貧困対策「食」への取組について

- (2) 子供の貧困状態を察知し、支援機関につなげる調整役といえるスクールソーシャルワーカーの、とりわけ義務教育段階である小中学校への導入について、どのようにお考えでしょうか。

【教育長答弁要旨】

教育委員会には、スクールソーシャルワーカーの小中学校への導入についてお尋ねをいただきました。

議員ご指摘のとおり、スクールソーシャルワーカーには、社会福祉や司法等の専門的な知識と技能を活かして、貧困をはじめ、児童生徒の置かれた様々な環境課題を解決する役割が期待されているところでございまして、本県では本年度より2名のスクールソーシャルワーカーを定時制の高等学校に配置したところでございます。

また、県内の一部の市町村では、スクールソーシャルワーカーを独自に配置しておりまして、深刻な家庭環境にある小中学校の子どもたちの状況についての対応を学校と協議したり、保護者との面談を重ね福祉的支援が受けられるように関係機関につなげたりすることで、子どもたちの学校生活が改善したという報告もうかがっております。

県教育委員会といたしましては、スクールソーシャルワーカーの必要性については十分に認識しているところでございまして、今後、高等学校におけるスクールソーシャルワーカーの活用状況や市町村での先進的な取組の成果と課題を整理してまいります。その上で小中学校におけるスクールソーシャルワーカーの充実が図られるよう、その方策について検討してまいりたいと考えております。

【要望】

学校での貧困家庭の子どもたちであります。わたしの知人にスクールカウンセラーをやっている者がいます。話を聞いてみますと、1クラスに何人かは貧しい家庭の子どもたちがいます。そういった子どもたちは、たとえひもじい思いをしても決して言葉や声には

出さないで、なかなか貧困の状況がわかりにくいと言っていました。ただ、担任の先生は見ているので、そっとパンとかおにぎりをかきあげて渡してあげて、支援していると言っていました。

ただ、学校の先生だけでは、助けてあげるといっても限度があります。そんな中でやはり今、スクールソーシャルワーカーの任務というものの話がありますけれども、適切に貧困状態を察知して、保健機関につなげることができるのは、スクールソーシャルワーカーですので、是非とも義務教育の小中学校に一刻も早く配置をお願いしたいと思います。

人は誰でも生まれながらにして幸せに生きる権利があります。貧しさは、子どもの責任ではありません。貧困であっても大切な子どもです。これからの日本を、そして愛知を担っていく大切な子どものために愛知県が策定した子どもの貧困対策推進計画が実効性をもってしっかりと取り組んでいていただければと思います。

【質問要旨】

1 改正道路交通法に伴う自転車運転ルールについて

- (3) 自転車の原則歩道通行禁止、及び自転車運転者講習制度を始め、自転車運転ルールをしっかり身に付けさせるためには、通学等で日常的に自転車を使用する機会の多くなる高校生に対する教育が重要です。そして、単に知識を教えるだけでなく、自らの運転行動に気づきを促す教育も必要と考えます。

そこで、県立高校では、自転車の運転ルールの教育・指導について、現状はどのように進めておられるのか、今後どのように教育を行っていくのか、教育長にお尋ねします。

- (4) 事故はもちろん起きないことが一番です。しかし、万が一生徒の事故が起きてしまった場合、自分の治療費の問題もありますが、加害者となった場合の損害賠償は生徒の今後の人生に大きな影響を及ぼすことが考えられます。

そこで、生徒が事故の加害者になってしまった場合の損害賠償に備えるために、自転車保険への加入について積極的な働き掛けを行っていくことは考えているのか、先程の御質問で県警本部長が御答弁されていましたが、教育長にもお尋ねをいたします。

【教育長答弁要旨】

- (3) 教育委員会には、県立高校における自転車の運転ルールに関する教育についてお尋ねをいただきました。

高校生の交通事故の多くは自転車運転時のものがございますので、生徒による自転車の運転ルールの遵守の徹底は、事故防止の面で重要な課題と認識しているところでございます。

そこで各学校におきましては、毎年度必ず総合的な学習の時間や特別活動の時間等を活用いたしまして、警察や自動車学校から講師を招くなど、学校全体で運転ルールに関する教育を行っております。また、新入生に対しましては、高校から初めて自転車通学をする生徒も多いことから、右側の路側帯通行禁止等の最近の運転ルール改正を中心に、保護者も含めて周知を図っているところでございます。

特に、今月1日の「自転車運転者講習制度」の開始にあたりましては、地元警察に地域の交通事情に応じた具体的なルールの適用について相談をしたり、生徒への資料配付

や教室掲示を行う等、運転ルールの周知・徹底を図ってきたところでございます。

また、知識があってもルールを守ろうとする自覚がなければ、安全行動にはつながりませんので、各学校では、ヒヤリハット体験に基づく意見交換や交通安全マップの作成、また、地域と連携した駅前や学校前での自転車安全利用キャンペーン活動への参加等を通して、生徒の自覚を高める取組にも努めているところでございます。

教育委員会といたしましては、こうした特色ある取組を交通安全指導者研修会等の機会に各学校へ紹介したり、学校間での情報交換の場を設定したりして、学校の積極的な実践を促すなど、自転車の安全運転指導の充実が図られるよう努めてまいりたいと考えております。

(4) 次に、自転車保険の加入の働き掛けについてお尋ねいただきました。

近年、自転車での加害事故による高額賠償が問題となっている現状を踏まえまして、学校では、特に生徒による自転車の加害事故の発生に危惧を抱いているところでございます。このため、自転車は車両であり、加害者となり得るものであるという認識を持たせる、交通安全指導に一層努めますとともに、万が一の事故に備えた様々なタイプの保険の情報を、保護者に提供し加入を促してありまして、入学時のオリエンテーションの際に、自転車保険の団体加入の便宜を図っている学校もございます。

また、一部の学校では、保険の加入を条件に自転車通学許可を行っております。

県教育委員会といたしましても、引き続き各学校に最新の保険情報を提供する等、学校の実情に応じた方法で加入が促進されるよう努めてまいりたいと、このように考えております。

【要望】

最後に私から要望させていただきますが、少子化の日本において、日本の貴重な財産である子どもたちの成長を守るためには、自転車運転ルールにつきましても、子宮頸がんワクチンの定期接種におきましても、13歳から対象年齢となるということで、13歳がキーワードだと思います。

身の安全を確保するために、中学に入学し、13歳となる年齢から高校に通学しているうちに、危機管理意識を高め、様々な起こり得るリスクを回避し、危険や被害を減少するように考え、「自分の身は自分で守る」教育指導を中高生のうちにしっかりとさせていただくことを要望いたしまして、私の質問とさせていただきます。

平成27年6月定例県議会 一般質問(6月23日) 教育長答弁要旨
4番 公明党 市川英男議員

【質問要旨】

3 県立学校施設の老朽化対策について

喫緊の課題であった耐震化について、平成28年度までの完了の見込みがたった今、老朽化対策について、耐震工事に引き続き取り組んでいかなければならないと考えますが、今後どのように老朽化対策に取り組んでいかれるのか、教育長のご所見をお伺いいたします。

【教育長答弁要旨】

県立学校施設における老朽化対策について、お尋ねをいただきました。

県立学校施設につきましては、児童生徒の安全安心のため、体育館吊り天井の落下防止を含めた耐震対策に約950億円をかけ優先的に取り組み、平成28年度までには完了する見込みとなったところでございます。

この耐震工事の中で屋上防水や外壁改修を行うなど、児童生徒の学校生活に支障が生じないように必要最小限の改修は行ってきたところでございますが、議員ご指摘のとおり、老朽化対策としては十分に行われていない状況となっております。

特に、耐震工事の必要がない建物につきましては、建築後、相当の年数が経過しても、施すべき改修が実施されていない状況でございまして、耐震対策後の大きな課題になっているというふうに認識しております。

教育委員会といたしましては、平成27年3月に「愛知県公共施設等総合管理計画」が策定されたことから、その考えに沿って、今年度から、老朽化対策を軸とする県立学校施設の長寿命化計画の策定に取り組み始めたところでございます。この計画の策定にあたりましては、事業費の平準化に考慮する必要はございますが、着実に老朽化対策が実施できるようにしてまいります。

なお、計画の策定期限は平成32年度までとなっておりますが、できるだけ早期の策定に努めるとともに、一刻も早い改修が必要となっている建物につきましては、計画の策定を待つことなく改修の実施を検討してまいりたいと考えております。

【要望】

県立学校施設の老朽化対策につきましても、遅れることなく、前に向かって進んでいただきたいと考えております。

【質問要旨】

1 グローバル人材育成について

(1) 日本人としてのアイデンティティーの育成について

ア 日本人としてのアイデンティティーを育てる為の取り組みとして、県立高等学校での式典の際には、国旗掲揚・国歌斉唱を、正しく行われているのかをお伺いいたします。

イ また、小中学校では、道德の時間を中心に道德教育が計画的に実施されていることは承知しておりますが、そのような小中学校の道德教育の取り組みは、具体的にどのように高等学校に引き継がれているのかお伺いいたします。

(2) 積極性のある人づくりに関する教育について

ア 世界の中から埋もれてしまわない人材育成には、思考力・判断力・表現力、また、コミュニケーション能力や積極性などを育てる必要があると考えます。現在、それらの能力を高めるための取組が、文部科学省からスーパーグローバルハイスクールに指定された愛知県立旭丘高等学校で行われていると伺っておりますが、こちらに関しての成果と、今後の愛知県全体への還元についてどのようにお考えかお伺いいたします。

イ 本県においても、愛知県立知立高校において、「自らを高める」や「社会に役立つこと」を基本的視点とした人間像の実現に向けた学校設定教科「キャリアデザイン」を創設し、普通科における「キャリア教育」が行われていますが、その成果と、今後の愛知県全体的な還元について、合わせてお伺いいたします。

ウ 現在9校ある、総合学科の県立高校では、将来の生き方を考えさせるキャリア教育を教育課程の中心にすえ、生徒が積極性を持って学んでいるようです。わたくしは、こうした優れた仕組みをもつ総合学科を、今後さらに推進していくべきだと考えますが、教育長のお考えをお伺いいたします。

エ この高校の数に対するALTの人数で、1クラスあたり、1学期の間にどれくらいALTの授業を受けられるのか。またそれに対する数値で具体的な効果は出ているのかをお伺いいたします。

【教育長答弁要旨】

(1)ア グローバル人材育成に関連しまして、何点かのお尋ねをいただきました。

まず、日本人としてのアイデンティティーを育てる取組のうち、県立高等学校における、式典の際の国旗掲揚・国歌斉唱についてでございます。

学習指導要領には、「入学式や卒業式などにおいては、その意義を踏まえ、国旗を掲揚するとともに、国歌を斉唱するよう指導するものとする。」と明記されております。本県の県立高等学校では、その趣旨を踏まえまして、生徒の学校生活にとって大きな転機となる入学式、卒業式などの式典には、全校が国旗を掲揚するとともに厳粛に国歌の斉唱を行っているところでございます。

イ 次に、高等学校における道德教育についてでございます。

議員ご指摘のように、高等学校における道德教育を充実させるためには、小・中学校において行われている指導の内容を踏まえつつ、生徒の発達段階に応じて指導を行うことが大切でございます。

小・中学校の道德教育は、「道德」の時間を中心に、「他の人との関わりに関すること」や「集団や社会との関わりに関すること」などの視点から行われているところでございます。

高等学校におきましても、こうした小・中学校における視点を踏まえつつ、道德教育の年間指導計画を学校ごとに作成をいたしまして、ホームルーム活動や学校行事、公民科をはじめとする各教科の授業など、学校の教育活動全体を通じて、人間としての在り方・生き方の自覚を促し、生命に対する畏敬の念や公共の精神を尊重する態度などの育成を図っているところでございます。

教育委員会といたしましても、高等学校の道德教育を一層推進するために、総合的な学習の時間や特別活動の時間に活用できる道德教育の参考資料を独自に作成いたしておりますので、その活用をさらに促し、生徒が体験や思索の機会を通して、人としてのよりよい生き方を目指し、社会性をしっかりと培うよう、道德教育の一層の充実に努めてまいりたいと考えております。

(2)ア 次に、積極性のある人づくりに関する教育についてのお尋ねをいただきました。

まず、スーパーグローバルハイスクールの成果などについてでございますが、議員お示しのように、その指定を受けている県立旭丘高校では、授業の中に物事を多様な視点から考察する力やプレゼンテーション能力などを育てる国際バカロレアのプログラムを取り入れましたり、昨年12月には韓国の高陽(コヤン)国際高校と日韓関係

等をテーマとした討論会を行うなど、多様な学習活動によって将来のグローバル・リーダーの育成に取り組んでいるところでございまして、生徒の論理的な思考力、英語によるコミュニケーション能力等の向上や、留学意欲の高まりなどが報告されているところであります。これらの取組については、研究発表会と、取組をまとめた冊子によりまして、県内外の高等学校にもその成果を伝えているところでございます。

グローバル社会をたくましく生き抜いていくためには、高いコミュニケーション能力や思考力・判断力・表現力を身に付けていくことが必要でございます。教育委員会といたしましても、こうした力を県立高校で広く育成していくために、国際共通語である英語教育の一層の充実はもとより、課題探究的な学習やアクティブ・ラーニングを積極的に推進するとともに、生徒が海外の文化に直接触れることができるさまざまな場をつくってまいりたいと考えております。

イ 次に知立高校普通科で取り組まれた「キャリア教育」の成果などについてのお尋ねでございます。

議員お示しのように、平成24年度から3年間、県立知立高校が、文部科学省の指定研究開発学校として、キャリア教育に関する研究を進めてまいりました。その特色は、3年間を通して系統的・体系的なキャリア教育を行うということでございまして、1年次に産業・文化施設の訪問と職業人インタビュー、2年次には大学キャンパス訪問やインターンシップ、3年次にはこれまでの各自の学習を踏まえた12の講座別学習など、生徒のキャリア発達を促す多様な教育活動に取り組んでいたところでございます。

同校では、これらの活動により、生徒が将来について相談し合う様子がこれまで以上に見られるようになるなど、キャリアプランニングに対する意識の高まりに加えまして、学習意欲そのものの向上も見られ、これらの成果につきましては、昨年8月の教育課程研究協議会で、県立高校全校に発表したところでございます。

教育委員会といたしましても、普通科におけるキャリア教育の充実は大きな課題であるというふうに考えておりまして、この知立高等学校をはじめとする先進的な取組を踏まえ、特に普通科に対して、インターンシップや、総合的な学習の時間を活用したキャリア教育の取組を強く促し、生徒の社会的・職業的自立の基盤となる能力や態度の育成に努めてまいりたいと考えております。

ウ 次に総合学科の設置についてもお尋ねをいただきました。

議員ご指摘のとおり、総合学科高校では、生徒が将来の生き方や自分の適性を見つ

める学習活動を行うことによりまして、授業への興味・関心が高まるだけでなく、学ぶことの楽しさや達成感も得られるなど、大きな成果を上げているところでございます。

現在、県立の総合学科高校は9校でございますが、生徒や地域の方々からも高い評価を得ていることや、総合学科への通学が容易でない地域がまだ複数あることから、この3月に策定した「県立高等学校教育推進基本計画」のこの中でも、総合学科のさらなる設置を位置付けたところでございます。

現在、この計画を推進するための「実施計画」を策定中でございますので、その中で新たな総合学科の具体化を図ってまいりたいと考えております。

エ 最後に、A L Tの配置についてでございます。

現在県立高等学校に配置しているA L Tにつきましては、議員お示しのとおり、英語教育の拠点となるハブスクール各校に今年度から新たに一人ずつ常駐配置をすることといたしました。

ハブスクール以外の107校に対しましては29名のA L Tを、他の30校には本県で直接雇用する在県外国人語学講師を派遣しておりまして、全校においてネイティブスピーカーを活用して、英語教育の充実を図っているところでございます。

1クラスあたりのA L Tの活用頻度につきましては、すべての学年、クラスを平均すると、1学期間に2回から3回程度となりますけれども、各学校では、1年生で開講する科目「コミュニケーション英語」に集中的に活用するなどの工夫を行いまして、効果的なA L Tの活用に努めているところでございます。

A L Tが行う授業は、生徒にとって生きた英語に触れる貴重な機会となっており、英語学習へのモチベーションを高めるとともに、実践的な英語コミュニケーション能力の育成に大いに役立っております。また、英語教員にとりましても、A L Tの指導方法を学び知ることが、授業スキルの向上につながっているところでございます。

この他、A L Tの活用は授業外においても活発に行われておりまして、たとえば、生徒が書いた英文の添削、英会話部等の指導、英語スピーチコンテスト出場者への指導、さらには、教材や指導資料の作成など、さまざまな場面で活用が図られているところでございます。

教育委員会といたしましては、ハブスクールにおけるA L T常駐化の成果も検証しながら、今後のA L T配置のあり方について、検討を進めてまいりたいと、このように考えております。以上でございます。

【要望】

ご答弁いただきまして誠にありがとうございました。ご答弁いただいた内容の中から、いくつか要望をさせていただきたいと思います。

質問の中でもお伝えをいたしましたけれども、やはり、日本人としての意識を持つ、そういった取組ということが、僕は、やはり重要だと思いますので、今後ともその点、力を入れて、継続してやっていただきたいと思います。

そして、道徳教育の部分でありますけれども、やはり、小学校、中学校ときていますものを、高校でもやはり継続して、さらには、年代に合わせた形でのことを行っていただければと思います。

先程おっしゃられた県独自で作成した資料というのは、おそらく「明日を拓く」という冊子かと思いますが、私も拝見させていただきました。中身を見ますと、本当にいいものだと思います。自分ならどのようなシチュエーション、どのような形、どういう立場で動きますかという、自発性を促すものであります。一つの例として、杉原千畝さんのことが書いてあります。私たち愛知、名古屋で住む人間としては、郷土という部分に関しても、関心の持てるいい冊子だなあと感じました。独自に作られた「明日を拓く」というものを、今後より一層具体的に、高校教育の中で使って、生徒たちに学んでいただきたいなあと感じます。

そして、アイデンティティーという部分に関してですが、スポーツの国際試合が行われる際には、若者を中心として、日の丸を顔にペインティングをしたり、日の丸を振って応援したりということは皆さんご承知だと思います。本来、私たちも若者も、そういった気持ちを持っていると思います。それが、教育の場面に関すると、少し歪んで伝わってしまう時がたまにありますので、本来、日本人が持っているものを正しく、これからも教育の中で伝えていっていただければと思いますのでよろしくお願いします。

そして、先ほどご回答いただいたキャリア教育、総合学科のことについてですけれども、生徒が自発性を持って学んでいくという点に関しましては、本当に素晴らしい部分だと思いますし、素晴らしい成果があがっていると思います。今後も引き続きやっていただきたいと思います。

最後にALTのことでありますけれども、ご回答の中にもありました、海外の文化やまさに生きた英語に接するという点に関しては、本当に素晴らしい取組だと思います。ただ、先程の1学期の間に2時間、3時間授業が受けられるということに関しまして、どれくらいの効果があるのか、全ての学校に一人を配置しようということではなく、費用対効果と

して、どれくらいの効果が出るのかということに視点を置いて、検証をしていただき、これからもご検討をいただければと思います。

ありがとうございました。

【質問要旨】

2 子どもの笑顔が集まるプロジェクト について

(1) 県庁へ行こう!

ア 選挙権年齢の引き下げという歴史的なこの時に、子ども達の政治・行政に関する教育について、どのようにお考えかご所見をお伺いします。

【教育長答弁要旨】

子どもたちの政治・行政に関する教育についてお尋ねをいただきました。

今回の公職選挙法改正によりまして、高校生の一部も選挙権をもつこととなりましたので、議員ご指摘のとおり、子どもたちが国や地方自治体の活動に今まで以上に関心を高め、当事者意識をもって政治や行政について学ぼうとする態度を育成していくことが、ますます重要になってくるものと考えております。

現在、小・中学校では、議員お示しのように、議場の見学をはじめ、実際の選挙で使用する投票箱などを用いた模擬投票、さらには、子ども議会などで市町村長にまちづくりの提案をするなど、政治や行政への関心を高めるさまざまな取組が行われております。

また、高等学校においても、政治や行政の仕組みについて、教科書で学ぶだけでなく、県選挙管理委員会が行っております「選挙出前トーク」などのプログラムを活用し、自らが主権者として政治に参加することについての意識を高める取組が始まっております。

教育委員会といたしましては、各学校段階におけるこうした体験的な学習活動がさらに充実するよう、研修会等を通じて働きかけるとともに、社会的な問題に関するテーマ学習や討論などをこれまで以上に積極的に取り入れるなど、自分自身で考え、判断する力を養い、子どもたちが将来、主権者として主体的に政治や社会に参加することができるよう、指導の一層の充実を努めてまいりたいと考えております。

【質問要旨】

2 受動喫煙を防止する環境づくりについて

(8) 教育現場についても、教科以外で児童生徒や保護者に対して現在、どのような取組がされているか教育長にお聞きします。

【教育長答弁要旨】

教育委員会にも、教育現場における教科以外での児童生徒や保護者に対する受動喫煙防止のための現在の取組についてお尋ねをいただきました。

県教育委員会では、児童生徒の受動喫煙による健康への影響に配慮する観点から、平成16年度から県立学校について敷地内禁煙とし、教職員はもとより、保護者、外来者等に対しましても、これまでも受動喫煙防止の協力依頼を行ってまいりました。また、市町村教育委員会にも、そうした取組を行うよう協力を依頼してきているところでございます。

学校の取組といたしましては、学校と保護者が、受動喫煙防止の必要性を十分に理解し、互いに連携できるよう、学校が児童生徒、保護者向けに発行しております「保健だより」を活用したり、保護者が参加する学校保健委員会、公開授業、保護者会などの機会をとらえて啓発に努めているところでございます。

【要望】

一点だけ要望をさせていただきたいと思います。先ほど壇上の質問で取り上げさせていただいたように、東京都や山形県は三年後を目安にしっかりと受動喫煙対策、取り組んでおられます。愛知県が主導的役割を担いつつ、県内で受動喫煙防止対策をしっかりと行っていたら、現在計画にあります健康日本21あいち新計画で目標を定められております、平成34年度に達成をしたとしても、とうに他の都県では達成をされている状況になってしまいます。ぜひとも愛知県をタバコ後進県と言われたいよう、しっかりと取り組んでいただくことを、強く要望をさせていただきます。

議案審査(2 件)

第 102 号議案

愛知県体育施設及び社会教育施設条例の一部改正について

第 104 号議案

訴えの提起について

【議案質疑】

富田 昭雄 委員(民主党)

訴えの提起について

- ・生活困窮者の把握
- ・返還滞納者の増加の要因

【一般質問】

山田 たかお 委員(自民党)

教員の不祥事防止対策プロジェクトチームについて

- ・設置の目的、構成メンバー、今後の予定
- ・協議内容

岡 明彦 委員(公明党)

警察と学校の連携について

- ・学校と警察との連携、情報交換の現状
- ・問題行動を起こしている子どもへの対応

家庭教育相談について

- ・家庭教育コーディネーター等の周知、活動実態及びその成果

安井 伸治 委員（民主党）

主権者教育について

- ・ 教育的観点からみた目的
- ・ 今後の授業展開

教員採用と配置について

- ・ 芸術・スポーツ特別選考の内容及び実績
- ・ 各学校の活性化、特色化を進めるための人事上の配置

辻 秀樹 委員（自民党）

ユネスコスクールについて

- ・ これまでの取組
- ・ 今後の取組

ICTを活用した学校教育の推進について

- ・ 現状と今後の取組及び課題

小学校における英語教育について

- ・ 段階的な先行実施の考え方

富田 昭雄 委員（民主党）

教科書採択について

- ・ 教科用図書選定審議会の委員の選出方法
- ・ 同じ教科書発行者の教科書が採択される状況への認識
- ・ 公平、公正で透明性ある教科書採択への対応

インクルーシブ教育について

- ・ 県としての認識
- ・ 障害のある児童生徒への対応

神野 博史 委員（自民党）

キャリア教育について

- ・キャリア教育の現状
- ・キャリア教育の成果及び今後の課題
- ・キャリア教育の充実のための教員の研修

総合工科高等学校について

- ・他の工業高校との違い
- ・デュアルシステムの内容
- ・開校に向けての準備状況

直江 弘文 委員（自民党）

総合学科について

- ・総合学科やコース制を設置するための費用

産業教育設備について

- ・老朽化した産業教育設備を更新するための費用

英語教育について

- ・惟信高校の取組への評価
- ・惟信高校の取組成果の還元
- ・英語有資格者の特別選考
- ・海外留学制度

道徳教育について

- ・小中学校における道徳の教科化に向けての対応
- ・高等学校における対応